

令和5年度 第1回 高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和5年8月28日(月) 10:00～11:30

場 所：御旅屋セリオ 5階ホール

委 員：19名中17名出席

議事要旨：以下のとおり

【議題】総合交通戦略の取り組み状況及び高岡市地域公共交通計画の骨子(案)について
資料1、資料2、資料3に基づき事務局説明

【質疑応答・意見交換】

○金沢大学 中山教授

- ・現行の高岡市総合交通戦略の目指すべき将来像である「コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり」については、新たに策定する高岡市地域交通計画から変わらないようだが、基本理念に関しては現行の「公共交通からまちを変える アクティブ交流拠点都市 高岡を目指して」から「高岡型コミュニティ交通」の確立による、持続可能な公共交通ネットワークの構築」へと変わっているが、これにはどういった考えがあるのか。また「高岡型コミュニティ交通」とは現行の交通システムとどういった点が異なるのか。

⇒ 事務局回答

現行の高岡市総合交通戦略における基本理念に関しては、計画期間が平成26年度から令和5年ということもあり、策定時には北陸新幹線の金沢開業が控えており、その中で高岡市をアクティブ交流拠点都市として位置づけ、北陸新幹線金沢開業に伴う市内のインフラ整備や、広域交流の拠点としての取り組みなどをクローズアップしていた。

一方で今回の骨子(案)については、市内にある様々な交通機関をネットワーク化し、市民の方々の移動利便性を維持・向上していくことを基本として、総合計画に掲げる「コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり」を将来像に掲げている。特に公共交通がネットワークの部分で担っていくということを改めて強調したいと考え、これまで明記されていない「高岡型コミュニティ交通の確立」について、改めて明記している。

また、「高岡型コミュニティ交通」については、市域の骨格的公共交通である鉄軌道や路線バス等と、これらを補充する市民協働型地域交通システムによって市域全体の移動利便性を高めていく交通システムのことである。

○富山運輸支局 廣井専門官

- ・市民協働型地域交通システムには高岡市ではノッカルなどが実施されていると思うが、これは例えば、デマンド交通などのように、交通システムにおけるどの部分にあたるのか教えていただきたい。

⇒ 事務局回答

市民協働型交通システムについては、それぞれの地区によって異なる移動ニーズ、例えば、学生の多い地区では通学の足に、高齢者の多い地区では高齢者の生活の足に、など、それぞれのニーズに対応するフィーダー路線として、骨格的公共交通にアクセスしやすい形態について、地域の方々が主体となって体系を構築し、運用していくものである。

る。現在、守山地区では、タクシー事業者との協力を得て、デマンド型交通を運営しているほか、野村地区でも同様の仕組みで実証運行に取り組んでいる。また、中田地区では、自家用車を使った乗合サービスによるデマンド型の実証運行に取り組んでいる。このように、市民協働型交通システムについては、交通システムとして決まった形があるものではなく、地域が主体となって、地区毎のニーズに対応してそれぞれの体系で運行され、骨格的公共交通と接続するフィーダーとしての役割を担うものである。

○高岡市社会福祉協議会 会長代理 上見事務局長

- ・人口減少が進む中で、本日お示しいただいた骨子案の方向で問題ないと考えている。
- ・市民協働型地域交通システムについては、今ほどの説明で、地区の特性に対応していることが分かった。これについて、例えば中田地区と守山地区は、異なる仕組みで運行されているが、どのようなアプローチの結果によるものなのか。地域における検討過程についても、共有いただければ、今後、導入を検討する地域においても参考になるものとする。
- ・また、MaaS の活用とはどのようなものなのかご教示願いたい。

⇒ 事務局回答

市民協働型地域交通システムについて、野村地区や守山地区ではデマンド型の地域タクシー、中田地区ではデマンド型の自家用車を使った乗合サービスが実証も含めて、現在運行している。他にも小勢地区では定時定路線の地域バスを地域で運行している。それぞれの導入にあたっては、市として地区毎に費用負担も含めた相談を受ける中で、市の支援制度や運行に係る地域負担も含めて検討を進めている。利便性を求めてサービスを追求すれば、その分コストもかかってくるため、需要とのバランスについて地域毎に検討を重ね、導入に至っているものである。事前の相談にあたっては、想定される交通システムの提案や他地区の導入事例の紹介などにより、検討を進めている。今後、導入を検討する地域においても参考となる情報の共有を図ってまいりたい。

MaaS については、デジタル技術を活用して、目的地までのスムーズな移動や、交通移動と併せて宿泊や飲食、観光などのサービスについて、決済も含めて提供するシステムのことを指す。現在、複数の交通機関をまたぐ乗り放題チケットや、移動と食事がセットになったサービスを提供する観光型 MaaS が JR やトヨタにおいて展開されている。本市では、市内の交通事業者の皆様に、この MaaS を活用いただき、高速バスや市内周遊切符のデジタルチケット販売を展開いただいているところ。また、本市独自の取り組みとしては、中田地区における市民協働型交通システムの実証にあたり、LINE を活用した配車予約サービスを導入しており、他地区への横展開にも取り組んでいる。将来的には、決済システムが一連となったサービス提供を目指すことができると考えている。

○高岡市連合自治会 藤田副会長

- ・現行の総合交通戦略の基本理念においては「公共交通からまちを変える」という大胆な目標を掲げているが、今後策定する計画の基本理念についてはそのような大胆さがないように感じる。現行の基本理念も踏まえて、どこかにチャレンジしていくような要素を入れるべきではないのか。
- ・基本方針については、当初総合計画にあった内容と新しい基本方針の変化について、現状、何ができていて何が不足しているのかわかりやすく教示願いたい。

⇒ 事務局回答

今回お示しした、基本理念及びこれに基づく基本方針では、市民アンケートの結果や公共交通の利用実態から自家用車に依存している現状を踏まえ、持続可能な公共交通を目指して、目の前のできるところから、着実に取り組んでいくことを意識している。このことから、特に現在ある交通資源を有効に活用して、市内の交通ネットワークを維持するとともに、これらの利便性向上を図ることで、地域交通を活性化していくことを基本に置いている。また、市民の方々においては、日々の通勤の中で月に1度は公共交通を利用してみるなど、生活の中に公共交通を取り入れていただきながら、自家用車に依存した社会の中で、公共交通を利用移動手段の一つとして選択肢とするような要素を今回の計画に加えて、取り組みを進めていきたいと考えている。その中では、ご指摘のチャレンジしていく要素についても、盛り込んでいくことが必要と考えている。

また、基本方針の変化要因について、現状何が不足していてそれをどう克服していくかということについては、今回の骨子（案）には入りきらなかった部分もあったので、今後、策定を進める素案において、その部分についても明記していきたい。また、掲げている基本方針等についても、素案の策定において、その内容を精査していきたい。

○金沢大学 中山教授

- ・新たな計画の基本理念については藤田副会長も話した通り、少しトーンが下がったような印象を受ける。ただ、新型コロナウイルスにより交通事業が受けた影響は、回復してきているとはいえ、コロナ禍以前の状況にまで回復するかは依然分からない。このような実状を踏まえると、現在の総合交通戦略策定時の10年前のようなアクティブな目標を掲げるとは、厳しい部分もあると理解している。
- ・現在、策定を進めている地域公共交通計画の計画期間の令和6年からの5年間は、コロナ禍で落ち込んだ地域交通の利用者の回復や、それに合わせた地域交通のケア、今後への期待に応える地域交通の維持なども観点に入れなければならないと考えており、今回の骨子案はこれらを踏まえて、方向性をまとめられたものと考えている。計画については、この5年間で終わるものでなく、次の5年と将来につながるものである。将来において、まちを変えるようなアクティブな地域交通の実現を図れるように、今回の計画が、その基礎を築く期間となるよう、将来を見据えて策定をお願いしたい。

○富山県交通政策局 交通戦略企画課長代理 谷村主幹

- ・現在、県においても計画策定を進めている。従来、公共交通については、民間が主体であり、行政の役割は、従来、側面支援が主となっていた。これについて、先般の県の交通戦略会議では、今後の人口減少社会を見据えた場合、従来のやり方では利用者が減り、それに伴いサービスの低下という悪循環を招く恐れがあることから、公共交通を公共サービスとして捉え、街づくりの魅力向上という観点から、行政は投資として捉えていくことを説明したところである。併せて、沿線の県民の皆様においても、主体的に公共交通に参画いただく役割をお願いし、公共交通の利便性向上による好循環に向けて施策を取りまとめていくこととしている。
- ・これまで以上に街づくりと公共交通の連携が重要になり、双方が活性化されることが望ましいと考えている。高岡市においても、本日、お示しいただいた骨子案において、まちづ

くりとの連携が記載されており、県の方向性とも整合を図っていただいていると理解している。今後、計画に掲げる具体的な施策などにも、そういった視点を取り入れていただきたい。

○西日本旅客鉄道㈱金沢支社 地域共生室企画課交通企画室 鹿野室長

- ・ JR の当面の役割は、敦賀延伸を成功させて、観光を中心に、着実に高岡をはじめとした北陸エリアに多くの方に訪れてもらうことと考えている。新幹線車内に置いてあるパンフレット西 Navi を活用し高岡地域の PR にも取り組んでおり、新高岡駅を起点とする飛越能観光をきっかけとして、そこから地域交通全体への利用が拡大するといった、好循環が生まれることを期待している。
- ・ 先ほどご説明もあったが、JR が導入している交通アプリである WESTER や、これと連動した観光型 MaaS の tabiwa についても充実を図り、利便性を高める取り組みを進めてまいりたい。
- ・ また、城端線・氷見線についても、現在、県及び高岡市をはじめとした沿線市の皆様と検討を進めているところであり、引き続き、連携、協力をお願いしてまいりたい。

○あいの風とやま鉄道㈱ 総務企画部 助野部長

- ・ 現在の総合交通戦略では、安全・安心という言葉が明記されているが、新たな計画策定の視点や基本的な方針の中では、そのワードについて感じられないように思える。交通事業者の立場から言えば、利便性の向上は非常に大事なことで、これまでもいろんな取り組みを実施している。一方で、利便性の向上については、前提として安全・安心があってのものであり、事業者として重要なポイントであることを理解いただき、今後の計画策定においては、具体的な記載をお願いしたい。

⇒ 事務局回答

ご指摘のとおり、公共交通における安全・安心の視点は、大変重要な項目であり、今回お示しした、骨子案では具体の記載をしていなかったが、今後、素案を策定していく中で、基本的な方針における書きぶりも含めて、しっかりと明記させていただきたい。

※質疑応答、意見交換終了後、骨子案について、出席委員より承認をいただいた。

【その他】今後の進め方について

資料4に基づき事務局説明

上記、議事を終了し閉会した。

以上